



# 診察室の午後

白浜はまゆう病院  
泌尿器科部長 川嶋 秀紀

本州一早い白浜の海開き 行った。

も終わり、梅雨を越せば海のシーズンだ。紀南の海は美しい。その紺へきの青の透明さが他とは違う。紀伊山地の豊かな森林から、きれいな水が海に注ぐからだろう。変化に富んだリアス式海岸の景色も大好きである。駆け出しのころ、わずかな夏期休暇をもらい、家族で「くろしお」に乗りしばしば白浜に来たものである。

<7>

## 海

ため、近場のビーチなら、沿岸の町ガルベストーンまで行くことになる。しかし、ガルベストンの海はミシシッピ川から流れてくる泥の影響であまり澄んでいない。そこで私たちは、少々遠いが毎年ノース・パドレ島まで海水浴に行った。ここまで来ると海は青い。パ

中のフリーウェーを、左右に間近に海を見ながら走ると、砂州の島ノース・パドレ島に着く。

私たちは例年泊まった海辺のホテルから行くビーチは、青い海と空と砂だけの広い世界だった。他には何もなかった。人影も多くなかったと記憶する。子ども

たちははしゃぎ、私たちは時間を忘れて無心に遊んだ。今思えば「空と海と砂だけ」の果てしない世界もそれなりに良かった。この単純化された世界は、家族の絆を浮かび上がらせてくれたかもしれない。この中で自分を対峙(たいじ)させ見つめ直すのも良いだろう。カップルたちにとっては、自分たちだけの世界となる。

帰国後は大阪の大学に戻り、再び夜遅くまで仕事を続ける生活が続いた。毎年7月の終わりにになると、医局旅行と称して、一年中で最ももにぎわっている白浜まで若手医局員や看護師を連れ、1泊で海水浴に来た。ビーチにそのまま都会が移って来たような雰囲気は楽しい。海にはいろいろな思い出がある。